

パネルディスカッション 9 企画概要

タイトル	在宅介護の継続と充実のために ～利用者の生活支援のための多職種連携の在り方～
------	---

概要

地域包括ケアの実現は、自宅で暮らし続けたいと望んでいる要介護高齢者にとって重要なことである。5つの視点として次のようなものが挙げられている。

- ① 医療との連携強化
- ② 介護サービスの充実強化
- ③ 予防の推進
- ④ 見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など
- ⑤ 高齢期になっても住み続けることのできる高齢者住まいの整備

しかし、今現在システムが完成されたわけでもなく、地域包括ケアの実現にはまだ程遠い状況である。また、システムが造られても、実際機能させられるかどうかは現場で働く人々にかかってくる。そのため、多職種の「連携」とよく言われるが、どのようにお互いが働けば連携というのかははっきりしないままである。医療との連携といっても、介護職にとっては、利用者の異常を発見したときに医療職に連絡することや、一部の医療行為を実施するときに医療職に報告したり相談することと考えられていることも多い。しかし、連携は一方からもう一方に何かを報告することでもなければ、何かを肩代わりして行うことでもない。連携は共通の目標に向かい、お互い相手の仕事が最大限に実施できるように支え合い、協力することである。そうであるならば、各職種とも連携のための教育や努力が今後も求められる。

今回のシンポジウムでは、多職種が連携するための現在の問題点や課題を明らかにし、どのようにすれば連携を実現させられるのか考えたい。